

2009年6月5日発行 隔月発行

発行 / 大阪大学学生部キャリア支援課 http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm

編集 / 大阪大学学生部キャリア支援課 〒565-0871 吹田市山田丘1-1



THE KEY PERSON

「リスカーレ」のすすめ

太刀掛俊之 准教授 — 2・3

MESSAGE

盆栽と凡才がリーダーを育む

脇成吾 キャリア支援課長 — 4・5

REPORT

そこまでやって委員会

いちよう祭活動報告 No.1 — 6・7

「リスカーレ」のすすめ

教育・情報室
学生生活相談室担当 准教授

たちかけ としゆき
太刀掛 俊之



「あなたの身の周りで気になるリスクは何ですか」と尋ねられて、みなさんは何をイメージしますか？そして、どのような印象を持っていますか？

「リスク」というと、最近の話題であれば、新型インフルエンザの感染リスク、少し前であれば、企業の偽装による食品リスクなどが記憶に新しいかと思います。また、新聞やテレビ、インターネットといったメディアを通じてこれらのリスクを知るだけでなく、身近な人から話を伝え聞くなどして、さまざまな情報源から、リスクの情報を見聞きしながら普段の生活を送っています。このように身近なリスクを思い浮かべると、いわば「厄介者のリスク」としてネガティブなイメージで捉えているはずです。そして、私たちはこの「厄介者のリスク」の本質を理解して避けたり、取り除いたりする努力をしています。

それでは次に、みなさんが多くの時間を過ごす大学という場を振り返ってみて、どのようなリスクがあるか考えてみたいと思います。もちろん、新型インフルエンザの感染リスクをはじめとして、普段の生活と重なるリスクが挙げられるでしょう。また、大学の教育研究の場面においても、実に多くのリスクが隠れています。実験研究で扱っている化学物質や放射性物質の有害性が人体にもたらすリスク、海外へ調査研究に出かけ、その地域の衛生状態が必ずしも十分でない場合

の感染症のリスク…これらは一例にしか過ぎませんが、他にも多くのリスクを挙げることができます。みなさんはどのようなリスクを思い浮かべますか？そのリスクは、やはり「厄介者のリスク」でしょうか。しかしながら、大学では、そのようなリスクをあえて受け容れ、またはリスクをうまくコントロールしながら、未知の分野にチャレンジすることが、新しい知見や有益な示唆につながるということを学びます。つまり、ひとくちに「リスク」といっても、単に取り除いたり、回避したりするものが全てというわけではなく、場合によっては、能動的に受け容れる対象として捉え、そこから得られた知識や見方を通して市民社会に貢献するスタンスがあるということです。

ところで、このようにネガティブなイメージがつきまとう「リスク」ですが、その語源は、イタリア語の「リスカーレ」“Riscare (Risicare)”にあると言われていています。海上にある船舶が、座礁や沈没の予想される暗礁を避けながら航海するという状況に由来して、「勇気を持って試みる」という意味が含まれているそうです。航海技術が発達していない時代に、船乗りたちの優れた知識、経験、そして賢明な判断に基づいて進むべき航路を決定したのでしょう。そして航海が無事に終わり、念願の目的地に到着すれば、地域や国を越えて新しい情報や文化の共有がなされたのかもしれない

ん。これは、リスクを能動的に受け容れて新しい領域を切り拓くという点で、さきほど紹介したような大学のスタンスと共通しているように思えます。みなさんが「リスク」をネガティブなものではなく、「リスカーレ」として捉えるとき、また、自分が成し遂げたいと考えていることに対して勇気を持ってチャレンジしようとするとき、大学はみなさんを積極的に応援します。

大阪大学の学生支援事業のひとつである『市民社会におけるリーダーシップ養成支援』プログラムでは、各分野の先生方から専門的な知識を獲得するだけでなく、「教養」「国際性」「デザイン力」を軸とした「阪大スタイル」の姿勢を身につけることで、みなさんが市民社会の中で核となって活躍する人材となるよう、大学の教員や職員、そして学外の方々の力をあわせてプログラムを構築しています。そして、みなさんには、リスカーレの語源となった時代の船乗りたちの勇気に思いを馳せながら、現代の市民社会において、「勇気を持って試みる」リーダーとしての素養を身に付けて欲しいと思います。私自身は今年度からの参加となりますので、みなさんと同じく、多くの先生方と議論を交えながら本プログラムを楽しむ予定です。積極的に「リスカーレ」を学ぼうとするみなさんの参加を期待しています。

盆栽と凡才がリーダーを育む

■ リーダーとは

本年4月にキャリア支援課長を拝命しました脇成吾です。どうぞよろしくお願いいたします。3月までは留学生の受入れや本学学生の派遣等に関わることを主に担当する国際部学生交流推進課でお世話になっていました。その時は、同じICホールの1階に居ながら、学生支援GP「市民社会におけるリーダーシップ養成支援」があることを全く知りませんでした。原因は私の視野の狭さによるところ大であると反省しています。

キャリア支援課では、有志の学生さんたちと一緒に、平成19年度からこのプログラムを実践していることがわかりました。このプログラムは、本学の目標でもある「市民社会にロイヤリティーを持ち、リーダーシップを発揮する『阪大スタイル』の人材育成」を支援することがテーマになっています。

そこで、この『阪大スタイル』が何なのか、また、そこから生み出されるリーダーとはどんなものかを自分なりに考えてみました。私の自由な発想による考察であることをご了承ください。



学生部キャリア支援課長
脇 成吾

■ 「国際化」ってこれなのか！

本年3月に、本学と大学間協定を締結しているオランダのグローニンゲン大学に、学生支援団体の活動状況や留学生の受入れ体制、本学からの留学生へのインタビューによる留学全般に関する問題点等の調査に行ってきました。出張期間中、阪大への留学意欲を持ってもらうにはどうすればよいか、本学の学生の国際化を推進するにはどうすればよいか頭から離れませんでした。出張の帰路、たまたま通りかかったオランダ・アムステルダム市の「シゲル」の花市で、一鉢の松盆栽が目にとまりました。鉢には「BONSAI」と書かれていました。居並ぶチューリップなどオランダを代表する花群の中で威風堂々と座していた姿に思わず足をとめ、暫時見入ってしまいました。日本から遠く離れた異国の地でオランダ国民に愛されている姿が日本人学生とダブって見えました。頭から離れなかった「国際化」ってこれなのか！と瞬間的に思いました。

帰国後、なぜオランダで盆栽が展示されていたのかが気になって、インターネットで盆栽のことを調べてみました。日本における盆栽のはじまりは平安時代にまでさかのぼり、盆栽という言葉が使われるようになったのは江戸時代の末期で、この頃に日本独自の鑑賞スタイルがで



きあがっていったようで、今や日本独自の文化と言われるまでになった盆栽が海外に広がっていったのは、1970年の大阪万博で盆栽展が開かれたのが契機になっているという日本盆栽協会の分析も紹介されていました。現在では、海外で“BONSAI”の名称がすっかり定着し、雑誌が刊行されているほか、盆栽展、盆栽教室が各地で開かれており、海外では若年層にも愛好者が増えているとのこと。この時点でようやくオランダの花市で盆栽が展示されていた理由がわかりました。

さらに調べてみると、盆栽の種類は松類ばかりでなく、花物・実物・草物・葉物など実に多様であることもわかりました。ここまで盆栽に思いをめぐらせてハタと気づきました。本学の教育目標である「教養・デザイン力・国際性」が全て結実したものが盆栽にあるのではないかと。盆栽を育てる場合、まず初めに多様な素材の中から自分の意思で選択し、どういう形のものかをどのように育てるかという過程で「教養」、「デザイン力」が求められるのではないかと思います。それを育てるためには、日々の水やりや手入れは欠かせません。他人にまかせれば愛情はわかりません。育成期間は在学中だけのひともあれば、一生育てるひともあるでしょう。その結果、かけた愛情の深さが形になってあらわれ、言葉は発しなくても外国人に感動を与えることになるのではないのでしょうか。そこに「愛」、「美」を感じるからではないかと思えます。盆栽は世界にふたつとして同じものはなく、それぞれが個性をもった独自のスタイルとして育ち、いつの日か外国人にも愛される盆栽になることなのでしょう。そういう意味で盆栽には「国際性」があり、結果として「国際化」、「国際交流」にもつながっていくのではないかと思います。

■ 目標の実現にむけて

盆栽を愛しているひとの中にあの「イチロー」選手がいるということがネットで紹介されました。イチローと言えば「孤高の天才打者」と呼ばれ、人物像についてはすでに書物やメディア等で多数取り上げられています。再度インターネットで調べてみますと、小学校3年生の時点ですでに、将来はプロ野球の道に進み、メジャーリーグでの活躍も視野に入れていたとのこと。驚くべきは、その時から中学3年までバッティングセンターに1日も休まずに通いつめたといいます。休んだのは、バッティングセンターの休業日だけだったという徹底ぶりです。父親の協力があつたから続けられたと思

ますが、目標の実現にむけてただひたすら練習を続けることができるところが天才と言われる所以でしょうか。

高校では高校球児あこがれの甲子園大会に出場し、ドラフトで当時のオリックスに入団しました。入団後、コーチとともに体得したイチロースタイルの「振り子」打法を当時の監督から修正すると言われても断固として拒否し、その結果、日本人選手で初めてとなる年間200本安打を達成したことは周知のところ。自分の特性を知り尽くし、絶え間ない練習により体得した打法であったからこそ確固たる信念が生まれ少々ではぶれない自分の『軸』を持ち得たのかと思います。

その後、米国のメジャーリーグ・シアトルマリナーズに入団し、子供のころからの夢を実現しました。振り子打法はメジャーリーグの野球に対応するためさらに進化させ、昨年、入団以来8年連続で年間200本安打のメジャーリーグのタイ記録を樹立する等、現在の活躍はご承知のとおりです。メジャーリーグで不動の地位を確立した現在でも、球場に選手のだれよりも早く入り、グローブの手入れやストレッチ等入念に準備をして試合に備えるというのもイチロースタイルになっています。それを日本にいたときから欠かさず続けている点が彼の偉大な点ではないのでしょうか。

■ 努力の継続

このように誰でもできる基本的なことを毎日続けることによって究めていく。そして自分のスタイルを築いていく。これを実践できるか否かが天才と凡才の分かれ目になるのではないのでしょうか。自分自身の目標を見つけ、目標達成のための方法を考え出し、日々努力をすることで非凡になり、神からも愛される天才が育つのではないのでしょうか。

産業能率大学が2009年度の新入社員を対象に実施した理想の上司に関する調査結果では、男性部門ではイチローが初めてトップに選ばれたことが紹介されていましたが、「孤高の天才」は「理想の上司（リーダー）」にも進化しているのかもわかりません。

本学の学生が「愛、真、善、美」の心を持ち、自分自身の「盆栽」を育てるため日々努力を継続する。このような土壌が醸成されていくことによって、やがて市民社会で活躍できるリーダーが生まれることになるのではないかと。「盆栽と凡才がリーダーを育む」所以ではないでしょうか。

そこまでやって委員会いちょう祭活動報告 No.1

そこまでやって委員会のメンバーに、プロジェクトごとの当日の様子や感想を聞きました。

フリマで ECO !!

実施内容

日	時	2009年5月2日 10:00～16:00
場	所	大阪大学 豊中キャンパス 言語文化研究棟周辺
概	要	私たちの企画では「エコ」と「人のつながり」をテーマにしたフリーマーケットを開催しました。今回行った企画は普通のフリーマーケットとは違い、地域の方にも出店していただき、知らない人同士で一つのグループをつくり、店を一緒に運営してもらいました。さらに「要らないものでも必要とってくれる人がいる」という気持ちから出店されない方からも物品を提供していただき、自分たちでも店を出して販売しました。



当日の様子

当日は、準備不足のためバタバタしていましたが、当日スタッフのみんな、環境サークル「GECS」のみなさんの協力のおかげで目立ったトラブルもなく無事開催できました。企画に参加してくれた人たちも互いに積極的に話をしたり、お客さんとのコミュニケーションを楽しんだりと希望通りのフリーマーケットを実現できたと思います。他にも写真部の方に当日の様子を撮影してもらい、その写真を使いリアルタイムで更新されていく看板を作りました。その看板のおかげもあってか、たくさんのお客さんに足を運んで頂いて、にぎやかなフリーマーケットになりました。

感想

このような企画をするのは初めてだったので、当日までにはいろんな困難がありました。場所が思うように借りれなかったり、企画内容が変わってしまったり、参加者が思ったようにうまく集まらなかったり・・・しかし、最後には参加者のみなさん、お客さん、当日手伝ってくれたみんな、メンバーみんなの笑顔が見れました。

最後にみんな笑顔で終わったことを本当にうれしく思います。当日の様子にも書いたように、僕ら自身もたくさんの人に協力してもらい、たくさんの人との「つながり」の大切さを感じました。この企画に関わってくれたみなさんに感謝したいと思います。みなさん、ほんとうにありがとう。



あなたの IKIZAMA

実施内容

日	時	2009年5月2日 13:30～16:30
場	所	大阪大学 豊中キャンパス イ号館 イー23
概	要	阪大に緑のある方で、現在活躍されている方をゲストとしてお招きして、ゲストトークで大学時代をテーマに語って頂きました。また、参加者に「これから自分たちは何をしていくか」をテーマにゲストを交えてグループワークをしてもらいました。ゲストには参議院議員・大学教授・大学院生・学部学生をお招きしました。するべきことが多くイベントは慌ただしく進みましたが、その分濃い内容を提供できたと思います。

当日の様子

準備や受付等で大分バタバタしましたが、大体予定通りに進みました。私は司会をさせて頂きました。参加者の反応は上々で、楽しかったです。もちろんかなり緊張しましたが、ゲストの方々も参加者のみなさんもユニークな方が多く、たくさんの場面で笑いが起こっていたのが印象的でした。グループワークではゲストの方と交流出来たのが好評だったようです。色んな意見が出てびっくりしました。「留学をする」とかはもちろん、「お菓子の家を作る」というような意見も出てきて面白かったです。

イベント終了後も、参加者は熱心にゲストの方々とお話していました。

恋のから騒ぎ with 留学生

実施内容

日 時 2009年5月1日 13:00～16:00
 場 所 大阪大学 21世紀 懐徳堂 多目的スタジオ
 概 要 第一部（アイスブレイク）

・グループ内での自己紹介タイムや2択の参加者全員参加型アンケートを行うことで、初対面の人と打ち解け、参加者同士がコミュニケーションをとりやすい場の雰囲気を作る。

第二部（グループワーク）

・「恋」という切り口で、設定したテーマについてグループディスカッションをしてもらい、多様な価値観に触れてもらう。

第三部（参加者同士のフィードバック、本日の振り返り）

・イベントを通して感じたことを、グループ内のメンバー同士でお互いにフィードバックしあうことにより、それまでみてなかった自分を発見してもらう。

・エンディングムービーにより、このイベントを通してスタッフが参加者に何を伝えなかったかを提示して、参加者一人ひとりがイベントで得た「気づき」を、彼らの今後の人生につなげてもらう。



当日の様子

イベント参加者からの声で、もっとも反響の大きかったことは、演出に関することでした。

オープニングムービーを流し、会場の雰囲気を一つにしてイベント開始。その後の各プログラムごとでは、それぞれつくりたい雰囲気に合ったBGM、照明選びにこだわりました。実際に、あれほど参加者からの反響が大きいかとは予想しておらず、スタッフとしても演出効果の大きさに驚きました。そして、イベントの締めくくりに、私たちが伝えたいメッセージをエンディングムービーという形にして参加者に届けました。感動的な音楽とともに映し出されるメッセージには、重みがありました。アンケートでもメッセージについてのコメントが多く寄せられ、参加者に私たちの思いは伝わったと嬉しく思います。

感想

「新しいことにチャレンジ」「行動に移すということの大切さ」「一歩踏み出してみようと思いました」・・・

参加者からは、以上のようなコメントも数多くいただきました。これらは、私たちが参加者に伝えなかったメッセージであり、実際にその大切さを少しでも実感してもらえたという事実は非常に嬉しいことです。

しかし、このイベントを通して、「自分から行動することの大切さ」を実感したのは参加者だけではありません。私たちスタッフもです。このプロジェクトは、まさにゼロからのスタートであり、半年前にまさかこのようなイベントができるとは誰も予想していませんでした。イベントを企画したことのない学生が多く、手探りでやるしかない状況。当然のことながら、たくさんの壁が目の前に立ちはだかり、常に不安と焦りを抱いていました。でも、私たちは諦めませんでした。行動し続けました。たとえ回り道であったとしても、確実に前に進み続けました。イベントの成功を信じて。

このことは、このイベントだけでなく残りの4つのプロジェクト全てに言えることです。5つのプロジェクトの裏には、努力という名の膨大な「行動の積み重ね」があります。そして、一歩一歩の積み重ねが、大きなことを成し遂げることを可能にさせることを身をもって経験した私たちこそ、本当に「自ら行動することの大切さ」を実感しました。

今後、このメンバーは、それぞれの目標を目指して再び歩み始めるでしょう。しかし、この半年間で大切なことを学んだ私たちは、前に進むことができる。私はそう思っています。

プロデュース

感想

私たちのプロジェクトは、企画立ち上げ当時全員が1年次というメンバーでのスタートでした。初めての事だらけで、壁にぶつかり不安に押し潰されかけた時期もありました。でも、何とかここまで漕ぎ付け、イベントという一つの形に仕上げる事が出来ました。メンバーのみんなが、一年次だけ頼もしい人ばかりだったのが大きかったと思います。本当にメンバーに恵まれました。

当日は多少のハプニングもありましたが、上手くいったと思います。

私たちのイベントをきっかけに、参加者が何らかのアクションを起こしてもらえると嬉しいです。アンケート結果で、満足度が5段階評価ですべて4か5ばかりだったのが嬉しかったです。



締切間近!!

合宿研修 参加者募集中



【日 時】

1年次:2009年8月17日(月)～8月20日(木) 定員36名

2年次:2009年9月 2日(水)～9月 5日(土) 定員30名

3年次:2009年9月16日(水)～9月19日(土) 定員30名

【場 所】 VIPアルパインローズ・ビレッジ(兵庫県篠山市)

【応募締切】 ~~第1回締切:2009年5月29日(金)~~ 終了しました。

第2回締切:2009年6月30日(火)

応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

【内 容】 参加型ディスカッション形式(3泊4日)

鷲田総長・副学長・教職員・外部講師など多数の講師をお呼びします。

【交通機関】 大学から貸切バスを運行します。

【参加費】 13,000円

【応募要項】 http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm
をご覧ください。

【お問合せ】 吹田学生センター キャリア支援課

TEL:06-6879-7087

E-mail:gakuseikyasiiti@ns.jim.osaka-u.ac.jp

詳しくはWEBへ

http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/leadership_GP/index.htm

大阪大学 学生支援 GP

検索



INFORMATION

「Kaeru 通信くりふ」では、引き続きリーダーシップにちなんだ活動をしている方・団体の情報を募集しています。皆さんの活動を多くの人に知ってもらいたいと思っている方! 投稿をお待ちしています。

【お問い合わせ】

大阪大学学生部キャリア支援課キャリア支援第一係
gakuseikyasiiti@ns.jim.osaka-u.ac.jp

NEXT ISSUE No.5

☆夏の合宿研修☆

このプログラムを担当していただいております
大和谷厚教授、木川田一榮教授、太刀掛俊之准教授の
合宿研修に向けたインタビューを掲載予定です。

☆そこまでやって委員会 in いちよう祭レポート☆

次号発行日は8月7日(金)予定。

EDITOR'S NOTE

いちよう祭にて「そこまでやって委員会」の活動に参加された
皆さん、お疲れ様でした。

今年も8月・9月に合宿研修を行う予定です。様々な分野から
講師の先生をおまねきし、セッションをしていただきます。

是非、皆さんのご参加をお待ちしております。